

日本文化人類学会 50 周年記念事業

募金趣意書



2013 年 11 月 11 日

日本文化人類学会 50 周年記念事業募金委員会

各位

2014年5月、設立50周年を迎える日本文化人類学会は、全世界の人類学会と研究者の協力を受け、大規模な国際会議を幕張メッセで開催します。同時に東京六本木での展覧会や日本全国各地での一般向け講演会の開催を通じて、文化人類学を世界と社会に対して大きく開き、この学問が日本と国際社会に貢献する力を強化しようとしています。皆様方のご理解とご支援をお願いいたしたく、以下に記念事業についてご説明させていただきます。

澁澤敬三と文化人類学

日本文化人類学会の起源は、日本の財界の基礎を築いた澁澤栄一の孫、澁澤敬三に遡ります。栄一に懇請されてその後を継いだ敬三は、自身も大蔵大臣や日銀総裁を務めました。その心は常に民族学という学問にあり、1934年には日本民族学会設立の中心になりました。これが今日の日本文化人類学会の起源です。澁澤が遺した財団法人民族学振興会（Shibusawa Foundation for Ethnological Studies）は、長年にわたり文化人類学の発展を支え、現在でも公益信託澁澤民族学振興基金として大きな恩恵を与え続けています。

グローバル化と文化人類学

澁澤の時代とは異なり、グローバル化と複雑化が進みすべてが流動化しつつある現在、文化人類学という学問の重要性は急速に高まりつつあります。環境問題、資源エネルギー問題、一部地域での人口爆発と他の地域での超高齢化など地球規模の問題をはじめ、貧富その他の格差の拡大、移民と難民の増大、民族間や宗教間の対立、領土や資源をめぐる紛争など社会の軋轢ばかりでなく、自然災害への予防と復興、国際競争の激化による経済発展の不可能化、情報通信技術の急激な発展による予期せぬ根源的社会変容など、いま何が起こっているのかを理解することさえ難しく、解決はさらに難しいと思われるような課題が山積しています。それでも私たちは、たとえその一部分ではあっても、積極的に問題解決を試みていかなければなりません。

文化人類学が生んだもの

急速に変動する状況の中、近代欧米で「未開社会の学」として成立した文化人類学は、その姿を大きく変えてきました。調査対象は小規模な地域民族社会から現代の大都市、さらには宇宙空間やサイバー空間まで拡大し、研究主題は民族社会の伝統的知識から最先端の科学技術や医療現場まで多岐にわたっています。このように、探求の射程や関心の広さと奥行き、アプローチの柔軟さと多様性、基礎研究と実践活動の微妙な間合いの取り方、そして常に「人間」を根源から考え直そうとする姿勢において、文化人類学は人文社会科学の中で独自の位置を占めています。日本研究の古典となったルース・ベネディクトの『菊と刀』や中根千枝の『タテ社会の人間関係』、人文社会科学の全体に巨大な影響を与えたレヴィ=ストロースの構造主義やクリフォード・ギアツの解釈学、また実務の世界でも広く使われている川喜田二郎の「K

「J法」や梅棹忠夫の知的生産の技術などが、すべて文化人類学に生まれたものであることはあまり知られていません。しかし、やはり文化人類学に発する「フィールドワーク」や「エスノグラフィー」という手法がこれから経営・ビジネスを含めた分野でも必須となっていくこと、現在あらゆる分野で叫ばれている「グローバル人材の育成」において、世界を自由に往来して人間の理解に努める文化人類学が主要な役割を果たしていくことは明らかであるように思われます。

記念大会と全世界の協力

澁澤の日本民族学会は1964年に現在の新組織に姿を変え、いまでは会員数も二千人を越えて米国に次ぐ世界第二位の規模になりました。来る2014年には50周年を迎え、起源から数えれば80周年になります。これを機に、この学会と学問を一層発展させ日本と世界に貢献するため、いくつもの記念事業の準備を進めています。以下の国際会議が全体の柱となります。

日本文化人類学会 50周年記念国際研究大会 (IUAES2014 合同開催)

2014年5月15日(木) - 18日(日) 会場: 幕張メッセ

IUAES 2014 with JASCA "The Future with/of Anthropologies"

<http://www.iuaes.org/japan2014/> (使用言語: 英語)

この記念大会は、国際人類学民族科学連合 (IUAES - International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) の中間会議を兼ねて実施されます。IUAES は人類学で世界最大の国際組織で、日本文化人類学会の小泉会長が事務局長を務めています。また本大会は、やはり小泉会長がその会長を務めた人類学会世界協議会 (WCAA - World Council of Anthropological Associations) の全面協力を得ています。このほかアメリカ人類学会 (AAA)、ヨーロッパ社会人類学会 (EASA)、韓国文化人類学会 (KOSCA)、台湾人類民族学会 (TSAE)、東アジア人類学会 (SEAA)、インド人類学会 (IAA) などのほか、国内の数多くの人類学関連学会の協力を受けており、世界と日本から一千人以上が参加します。

記念事業の目的

この国際会議では、「人類学の明日、人類学との明日」(The Future with/of Anthropologies) をテーマとし、この記念すべき時に人類と人類学の未来を展望し、同時に人類学によってどのような未来をもたらすことが可能であるかを考えます。最初にあげたような現代世界の多種多様な困難な課題に取り組むため、多元的な(複数形の)人類学 anthropologies のあり方を議論し模索しようとし、現代世界を生きる人々をその人々自身の視点からよりよく理解しようとする文化人類学によって、新しい未来を志向したいと考えています。

また、この記念大会と並行して、国立新美術館と国立民族学博物館の主催、本学会の共催で、記念展示「イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる」を、2014年2月19日(水)から6月9日(月)まで六本木の国立新美術館で開催します。全世界の人々が日常的に使うさまざまな「もの」を、芸術の視点から「アート」として見たときにそれがどれほどの力に溢れ、私たちを私たちの知らない世界に導くかを考えようとするものです。なお、大阪の国立民族学博物館のコレクションは今回初めて東京で展示されます。

このほかにも、文化人類学に対する理解を深めていただくために、専門家以外に広く一般に向けたシンポジウム等の開催を全国各地で企画しています。

ご支援のお願い

日本の文化人類学の学問成果を国内外に広く発信し、世界の諸学会・研究者との連携を強化し本学会を大きく発展させようとする本記念事業の実施には、予算的裏付けが必須であることは言うまでもありません。本学会の記念事業準備委員会では、申請可能な国内外すべての財団等に助成を申請し、今後も資金獲得の努力を最大限続けます。しかし、助成金だけで諸事業を十全に遂行できるとは言い難い状況にあります。事業の成功は全面的に資金に依存し、より多くの資金が得られればそれに比例して大きな成功が得られます。優れた研究者を全世界から招聘し、経済的に恵まれない地域の研究者の旅費・滞在費を支援するために、また現時点で既に予想をはるかに超えている参加者のために会場を確保し、成果を完全に広報・出版し、充実した市民講座を実現するためには資金が必要です。そこで、中根千枝先生を募金呼びかけ人代表、小泉潤二本学会会長を委員長として募金委員会を組織し、皆様からのご支援を募らせていただくことになりました。

このご寄附につきましては、特定公益増進法人 日本政府観光局（国際観光振興機構 JNTO）の協力を受けており、法人税法施行令第 77 条及び所得税法施行令第 217 条によって、一般の寄附金とは別枠で損金算入の扱いが受けられることになっております。

記念事業の趣旨を何卒ご理解いただき、日本文化人類学会と人類学・民族学の世界的な発展のため、皆様方の多大なご支援とご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

2013 年 11 月 11 日

日本文化人類学会 50 周年記念事業募金委員会

委員長 小泉 潤二

日本文化人類学会会長
国際人類学民族科学連合（IUAES）事務局長
人類学会世界協議会（WCAA）元会長
大阪大学名誉教授 未来戦略機構特任教授
大阪大学 グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）招聘教授
大阪大学前理事・副学長
公益財団法人 国際高等研究所副所長
（株）原子力安全システム研究所 社会システム研究所長

副委員長 栗本 英世

大阪大学大学院人間科学研究科教授
大阪大学 グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）前センター長

副委員長 綾部 真雄

首都大学東京大学院人文科学研究科教授
事務局長 森山 工
東京大学大学院総合文化研究科教授
東京大学 前総長補佐

記

ご寄附をいただける場合、添付の国際観光振興機構による文書「寄附金についてのご案内（寄附金受入手順）」によりお振込みいただきたくお願い申し上げます。

1. 同封の「寄附金申込書」（様式第5号）に寄附額と支払予定日をご記入の上、国際観光振興機構宛にご郵送ください。郵送用の封筒を同封しております。
2. 同機構から「寄附金申込受理書」（様式第6号）を受領されましたら、同機構が指定する寄附金払込口座（みずほ銀行銀座支店）に寄附金をお振込みください。
3. 振込が確認され次第、同機構から領収書（様式第7号）が送付されます。
4. 上記の通り、この寄附金につきましては、所得税法および法人税法上の課税優遇措置を受けることができます。
5. ご協力いただいた寄附金は、同機構から日本文化人類学会に対して交付されます。

企業・団体様は一口 100,000 円、個人様は一口 5,000 円をお願いしております。一口以上何口でも結構ですので、よろしくお願い申し上げます。

ご寄附をいただいた方々には、事業終了後、監査を受けた会計報告と会議報告を寄附者一覧とともに送りさせていただきます。

◆ 日本文化人類学会 50 周年記念事業 ◆

〒108-0073 東京都港区三田 2-1-1-813

日本文化人類学会 50 周年記念事業準備委員会事務局

TEL 03-5232-0920

FAX 03-5232-0922

e-mail: conference_secretary@jasca.org

日本文化人類学会 50 周年記念事業 募金委員会

呼びかけ人代表

中根千枝 東京大学名誉教授 日本学士院会員

呼びかけ人副代表

青木保 国立新美術館館長 元文化庁長官

大阪大学名誉教授

川田順造 東京外国語大学名誉教授

須藤健一 国立民族学博物館館長 神戸大学名誉教授

呼びかけ人

青柳真智子 立教大学名誉教授

赤澤威 高知工科大学総合研究所教授 国際日本文化研究センター
名誉教授

芦澤玖美 元大妻女子大学教授

飯島茂 日本文化人類学会元会長

石毛直道 国立民族学博物館元館長

石田英實 日本人類学会元会長 京都大学名誉教授

市川光雄 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科教授

大貫良夫 日本文化人類学会元会長 東京大学名誉教授

岡田守彦 筑波大学名誉教授

尾本恵市 東京大学名誉教授 国際日本文化研究センター名誉教授

加藤泰建 埼玉大学理事・副学長

金澤英作 日本人類学会前会長 日本大学名誉教授

木村賛 日本人類学会元会長 東京大学名誉教授

小長谷有紀 国立民族学博物館教授

佐々木宏幹 駒澤大学名誉教授

末成道男 元東京大学教授 元東洋大学教授

立本成文 総合地球環境学研究所前所長 京都大学名誉教授

田中二郎 京都大学名誉教授

谷泰 京都大学名誉教授

百々幸雄 日本人類学会元会長 東北大学名誉教授

波平恵美子 日本文化人類学会元会長 お茶の水女子大学名誉教授

馬場悠男 日本人類学会元会長

原ひろ子 日本文化人類学会元会長 お茶の水女子大学名誉教授

松浦秀治 日本人類学会会長 お茶の水女子大学 教授

松園万亀雄 国立民族学博物館前館長 日本文化人類学会元会長

溝口優司 国立科学博物館人類研究部長

山下晋司 日本文化人類学会元会長 東京大学名誉教授

山本真鳥 法政大学経済学部教授

吉田禎吾 日本文化人類学会元会長 東京大学名誉教授

渡邊 欣雄 日本文化人類学会 会長 國學院大学文学部教授

募金委員会委員長

小泉潤二 日本文化人類学会会長 国際人類学民族科学連合 (IUAES)
事務局長 大阪大学特任教授 国際高等研究所副所長

同副委員長

栗本英世 大阪大学大学院人間科学研究科教授 大阪大学グローバル
コラボレーションセンター (GLOCOL) 前センター長

同副委員長

綾部真雄 首都大学東京大学院人文科学研究科教授

同事務局長

森山工 東京大学大学院総合文化研究科教授
東京大学前総長補佐

同委員

赤堀雅幸 上智大学外国語学部教授
池田光穂 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授
石井 溥 東京外国語大学名誉教授
煎本孝 北海道大学名誉教授
上杉富之 成城大学文芸学部教授
植野弘子 東洋大学社会学部教授
宇田川妙子 国立民族学博物館准教授
太田好信 九州大学 比較社会文化研究院教授
岡田浩樹 神戸大学 国際文化学研究科教授
小田亮 首都大学東京 人文科学研究科教授
鏡味治也 金沢大学 人間社会環境研究科長
春日直樹 一橋大学大学院社会学研究科教授
亀井伸孝 愛知県立大学外国語学部准教授
岸上伸啓 国立民族学博物館副館長
窪田幸子 神戸大学大学院国際文化学研究科教授
栗田博之 東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
桑山敬己 北海道大学大学院文学研究科教授
合田濤 神戸大学名誉教授
小馬徹 神奈川大学人間科学部教授
坂井信三 南山大学文学部教授
佐々木重洋 名古屋大学大学院文学研究科准教授
佐々木史郎 国立民族学博物館教授
嶋陸奥彦 東北大学名誉教授
清水展 京都大学東南アジア研究所長
杉島敬志 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授
スチュアート ヘンリ(本多 俊和)
放送大学教授
関一敏 九州大学大学院人間環境学研究院教授
関根久雄 筑波大学大学院人文社会科学研究科教授
関根康正 関西学院大学社会学部教授
曾我亨 弘前大学人文学部教授

鷹木恵子	桜美林大学	教授	
高倉浩樹	東北大学東北アジア研究センター	教授	
田中雅一	京都大学人文科学研究所	教授	
棚橋訓	お茶の水女子大学		教授
玉置泰明	静岡県立大学国際関係学部	教授	
出口顯	島根大学法文学部	教授	
富沢寿勇	静岡県立大学国際関係学部	教授	
中川敏	大阪大学	人間科学研究科	教授
中谷文美	岡山大学大学院社会文化科学研究科	教授	
名和克郎	東京大学東洋文化研究所	准教授	
松岡悦子	奈良女子大学生活環境学部	教授	
松田素二	京都大学大学院文学研究科	教授	
三尾裕子	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	所長	
横山廣子	国立民族学博物館	准教授	
吉岡政徳	神戸大学大学院国際文化科学研究科	教授	
和崎春日	中部大学国際関係学部	教授	
渡辺公三	立命館大学	先端総合学術研究科	教授



寄附者の皆様へ

「日本文化人類学会 50 周年記念国際研究大会 (IUAES2014 合同開催)」
開催へのご協力のお願いについて

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

国際会議開催支援につきましては、平素より格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、日本政府観光局(独立行政法人国際観光振興機構)は、平成6年に前身である特殊法人国際観光振興会が特定公益増進法人に指定され、以来400件をこえる国際会議開催のための寄附金の受け入れを行なってきました。

ご高承のとおり国際会議の開催促進は学術や産業の発展、地域の振興、新規産業・雇用の創出ならびに国際交流の拡大に大いに寄与するものであり、当機構は特定公益増進法人として付与された使命を果たすべく支援をご提供しております。

今般、標記国際会議につきまして、その内容等公益に資するところが大きく我が国の発展に寄与するものと判断し、当該事業でご協力をする事となりました。

つきましては、主催者からすでに各方面の皆様方に寄附金の依頼が寄せられていることと存じますが、「日本文化人類学会 50 周年記念国際研究大会 (IUAES2014 合同開催)」を成功させるため、本会議に対する寄附金のご拠出について格段のご支援ご協力を賜りますよう私ども独立行政法人国際観光振興機構からも重ねてお願い申し上げます。

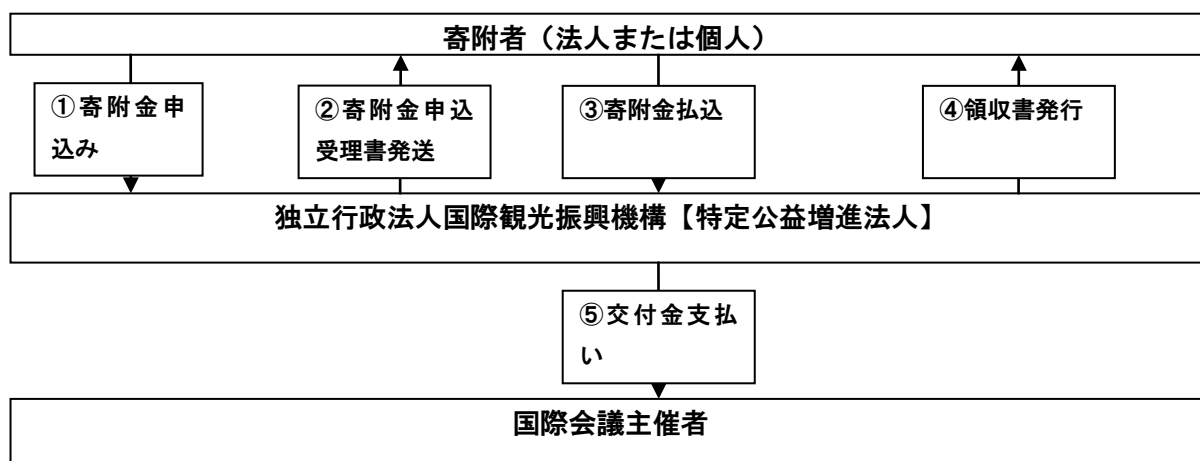
なお、当機構が受け入れる「日本文化人類学会 50 周年記念国際研究大会 (IUAES2014 合同開催)」に対する寄附金につきましては、法人税法施行令第77条及び所得税法施行令第217条によって、一般の寄附金とは別枠で損金算入の扱いが受けられることになっておりますことを念のため申し添えます。

平成 25 年 11 月

日本政府観光局
(独立行政法人 国際観光振興機構)
理事長 松山 良一

日本文化人類学会 50 周年記念国際研究大会（IUAES2014 合同開催）

寄附金についてのご案内（寄附金受入手順）



① 寄附金の申込み

寄附者が寄附金申込書（様式第 5 号）に必要事項を記入の上、当機構宛てご郵送下さい。
（「申し込み日」および「支払い予定日」を必ずご記入ください。）

申込書送付先：〒100-0006 東京都千代田区有楽町 2-10-1 東京交通会館 10F
独立行政法人国際観光振興機構コンベンション誘致部開催支援グループ
担当：青山 直人 TEL：03-3216-2905

② 寄附金申込受理書の発送

前記の寄附金申込書を受領し確認次第、当機構から寄附金申込受理書（様式第 6 号）を寄附者に送付いたしますので、到着後払込み手続きをお願いします。

③ 寄附金の払込み

寄附者は、寄附金申込受理書の受領後、寄附金を当機構指定の寄附金払込口座宛てお振込み下さい。

お振込は、会議開催日の前、平成 26 年 5 月 14 日（水）までをお願いします。
寄附金振込先取引銀行：みずほ銀行銀座支店(店番号 035)
口座番号： 普通預金 2292776
口座名義： 独立行政法人 国際観光振興機構 交付金事業
ドク コクサイカンコウシンコウキコウ コウフキンジギョウ

注) 銀行間の為替記号では、独立行政法人は「ドク」となるため、お振込の際は「ドク」コクサイカンコウシンコウキコウ コウフキンジギョウ とご記載下さるようお願いいたします。

④ 領収書の送付

振込みが確認され次第、当機構は領収書（様式第 7 号）を発行・送付いたします。領収書は大切に保管して下さい。

お振込み頂きました寄附金につきましては、特定公益増進法人に対する寄附金として所得税法および法人税法上、課税優遇措置がうけられます。なお、国際観光振興機構は所得税法施行令第 217 条、法人税法施行令第 77 条の特定公益増進法人の「1号法人」に指定されておりますため、所轄官庁発行の「証明書」はございません。

⑤ 交付金の支払い

寄附金は、当機構から主催者に交付金 として交付します。

寄附金申込書

平成 年 月 日

独立行政法人国際観光振興機構
理事長 殿

寄附申込者〔 法人 個人 〕

※法人か個人か○で囲んでください。

ふりがな

名 称

住 所 〒

ふりがな

氏 名

印

国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等による国際観光の振興に関する法律(平成6年法律第79号)の趣旨に賛同し、同法第9条に定める業務に供するため、貴振興機構に下記の金額を寄附いたします。

記

1 寄 附 額 円也

2 寄附金の希望使途 「日本文化人類学会 50 周年記念国際研究大会
(IUAES2014 合同開催)」
開催費用として

3 寄附金の支払予定日 平成 年 月 日

(備考/連絡先)

ご担当者氏名・役職

TEL/FAX



Home

The Japanese Society of Cultural Anthropology (JASCA) invites anthropologists from around the world to our 50th Anniversary Conference to be held jointly with IUAES Inter-Congress 2014.

The conference aims to attract over 250 international delegates to Chiba City in Greater Tokyo. The theme will be The Future with/of Anthropologies. The language of the conference will be English. The conference will take place from **15th to 18th May 2014**.



Chiba City

Call for papers

The [call for papers](#) is now open, closing on 09/01/2014.

JASCA annual meeting

The 48th [JASCA](#) annual meeting will take place at the same venue 17-1 May. Organizer: Tokyo Metropolitan University. Language: Japanese

NEWS

Read the conference [theme](#), see who will be giving the [keynotes](#), and browse the list of accepted [panels](#).

The [call for papers](#) is now open, closing on 09/01/2014.

We have also posted [accommodation information](#) so you can begin to make your reservations.

Add the [conference calendar](#) (the calls, registration, etc) to your own calendar.

Donate

If you wish to make a gift for this conference, please contact conference_secretary@jasca.org

EXHIBIT

A Special Anniversary Exhibit will be held in cooperation with the National Museum of Ethnology (Minpaku) and the National Art Center (Shinbijutsukan), from 19 Feb - 9 June, 2014, at the [National Art Center](#), Tokyo.

Theme: *Power of Images*

Exhibit: Collection of the [National Museum of Ethnology](#)

Co-operating organisations

INTERNATIONAL

- [WCAA](#) (World Council of Anthropological Associations)
- [AAA](#) (American Anthropological Association)
- [AJJ](#) (Anthropology of Japan in Japan)
- [EASA](#) (European Association of Social Anthropologists)
- [IAA](#) (Indian Anthropological Association)
- [JAWS](#) (Japan Anthropology Workshop)
- [SEAA](#) (Society for East Asian Anthropology)
- [TSAE](#) (The Taiwan Society of Anthropology and Ethnology)

DOMESTIC

- [ASN](#) (The Anthropological Society of Nippon)
- [FSJ](#) - the Folklore Society of Japan
- The [National Museum of Ethnology](#)

SPONSORSHIP

- MEXT: Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

This conference is supported by Chiba Prefecture and Chiba City.

It is also supported by Shibusawa Foundation for Ethnological Research, and by the Japan National Tourism Organization.

More about the organisations

To learn more about what [IUAES](#) and [JASCA](#) do, please visit the association websites.

Conference administrators and email address

[NomadIT](#) on [conference\(at\)iuaes.org](mailto:conference@iuaes.org)



Welcome to the portal of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, the oldest worldwide association for scholars engaged in the scientific study of humankind.



We call upon all anthropologists and ethnologists in all countries to become members of the IUAES, by clicking on MEMBERSHIP and completing the ONLINE FORM.



News:

- [President Harrison issued a message as the year 2014 starts.](#)
- [The Huffington Post ran a homage to IUAES President.](#)
- [The report of the 17th World Congress in Manchester in August 2013 is now available. Please click \[here\]\(#\). You can have access to videos of plenary addresses, debates and roundtable at the Congress by clicking \[here\]\(#\).](#)
- [The result of IUAES Election is in. Faye Harrison became IUAES President, and Subhadra Channa and Noel B. Salazar became Vice Presidents. \[See the announcement here\]\(#\).](#)
- [World Congress 2013 \(Manchester, UK\) ended on August 10th with a great success. We will upload the report of this Congress shortly.](#)
- [At the seventeenth World Congress in Manchester, Brazil was selected from among the four bidders as host of the eighteenth World Congress in 2018](#)
- [Three distinguished scholars – Buddhadeb Chaudhuri, Jack Goody and Sherry B. Ortner — became Honorary Members of the IUAES.](#)
- [In the first ever meeting of the IUAES Council of Commissions, the Head and Deputy Head of the Council were elected and immediately became members of the Executive Committee.](#)

- We created a new webpage for World Anthropologies for promoting cooperation and information sharing among world anthropologists.
- IUAES Commissions Report 2013 is now available.
- IUAES calls for nominations of Inter-Congresses between 2013 and 2018.
- The revision of the IUAES Statutes was approved by the votes of National Delegations.

[see more >>](#)

Forthcoming events:

The next Inter-Congress will be held on May 15–18, 2014, in Japan.

The call for papers is now open. It closes on January 9, 2014.



IUAES -- International Union of Anthropological and Ethnological Sciences
Secretariat, c/o Center for International Academic Exchange
National Museum of Ethnology
10-1 Senri Expo Park, Suita, Osaka 565-8511, Japan
Phone: +81-(0)6-6878-8235, Email: [iuaes.secretariat\[at\]idc.minpaku.ac.jp](mailto:iuaes.secretariat@idc.minpaku.ac.jp), URL: <http://www.iuaes.org/>

Junji Koizumi, Secretary-General, Email: [iuaes.s-g\[at\]locol.osaka-u.ac.jp](mailto:iuaes.s-g@locol.osaka-u.ac.jp)

History

The IUAES is a world organization of scientists and institutions working in the fields of anthropology and ethnology, but also of interest to archaeologists and linguists, among others. Its aim is to enhance exchange and communication among scholars of all regions of the world, in a collective effort to expand human knowledge. In this way it hopes to contribute to a better understanding of human society, and to a sustainable future based on harmony between nature and culture.

The IUAES was established on 23 August 1948, when it was brought into one organization, de facto, with the International Congress of Anthropological and Ethnological Sciences (ICAES), which was itself founded in 1934. The latter was the follower of various Congresses of Anthropological Sciences, starting in 1865, the President of the Congress also serving as the President of the Union. The two organizations were united, de jure, in 1968.

Through its major Congress (called ICAES until 2008, and subsequently renamed World Congress), held every five years, the IUAES provides a world forum for the discussion and dissemination of research. In the period between world congresses, it also sponsors Inter-Congresses, seminars and symposia, and encourages the participation of anthropologists in other international meetings and projects. Through its Scientific Commissions, the IUAES stimulates the convergence of research interests among anthropologists, and the dissemination of research findings through publications.

The Congresses held from 1934 onwards were as follows:

- | | |
|---|---|
|  1934 London, UK |  1938 Copenhagen, Denmark |
|  1948 Brussels, Belgium |  1952 Vienna, Austria |
|  1956 Philadelphia, USA |  1960 Paris, France |
|  1964 Moscow, Russia |  1968 Tokyo, Japan |
|  1973 Chicago, USA |  Delhi, India |
|  1983 Quebec and Vancouver, Canada |  1988 Zagreb, Croatia |
|  1993 Mexico City, Mexico |  1998 Williamsburg, USA |
|  2003 Florence, Italy |  2009 Kunming, China »» Report |
|  2013 Manchester, UK »» Report
»» Video archive |  2018 (Florianópolis, Brazil) |

Inter-Congresses took place in:

- | | |
|---|---|
|  1981 Amsterdam, Netherlands |  1990 Lisbon, Portugal |
|  1995 Florence, Italy |  1996 Linköping, Sweden |
|  1997 Perth, Australia |  2000 Beijing, China |
|  2001 Gottingen, Germany |  2002 Tokyo, Japan |
|  2004 Calcutta and Ranchi, India |  2005 Pardubice, Czech |
|  2006 Cape Town, South Africa |  2010 Antalya, Turkey »» Report |
|  2011 Perth, Australia »» Report |  2012 Bhubaneswar, India »» Report |
|  2014 (Chiba, Japan) | |

Presidents, Secretaries-General and Treasurers:

Year	President	Secretary-General	Treasurer
------	-----------	-------------------	-----------

Up to 1934	The Earl of Onslow	J. L. Myers A. H. Broderick	H. G. Beasley
1934–1938	Thomas Thomsen	K. Birket-Smith J. L. Myers A. H. Broderick	Kjeld Rordam
1946–1948	Ed. De Jonghe	Frans M. Olbrechts	Fr. Twiesselmann
1948–1952	P. W. Schmidt	W. Koppers J. Weninger	
1952–1956	Floelich G. Rainey	Yvonne Oddon	National Academy of Science, Washington, D. C.
1956–1960	Henri V. Vallois	A. Leroi-Gourhan P. Champion	R. d'Harcourt, M. L. Pasquino
1960–1964	S. P. Tolstov	G. F. Debetz, I. R. Grigoulevitch A. Leroi-Gourhan	L. N. Terentyeva
1964–1968	Masao Oka	Lawrence Krader	
1968–1973	Sol Tax	Lawrence Krader	
1973–1978	Lalita P. Vidyarthi	Lawrence Krader	
1978–1983	Cyril S. Belshaw	Eric Sunderland	
1983–1988	Hubert Maver	Eric Sunderland	
1988–1993	Lourdes Arizpe	Eric Sunderland	
1993–1998	Vinson H. Sutlive	Eric Sunderland	
1998–2003	Eric Sunderland	Peter J. M. Nas	Tomoko Hamada
2003–2009	Luis A. Vargas	Peter J. M. Nas	Tomoko Hamada
2009–2013	Peter J. M. Nas	Junji Koizumi	Andrew D. Spiegel

Source: Anthropology Now, P. J. M. Nas and ZhangJijiao, eds., 2009, Appendix 2.

- [Statutes before the revision of December 25, 2012](#)
- [Permanent Council before the revision of December 25, 2012](#)



HOME

ABOUT WCAA

DISCUSSION

MEMBERS

EVENTS

NEWS

PUBLICATIONS

LINKS

CONTACT

accessibility :: you are here: [home](#) / [members](#)

Members: International associations

[Anthropological Association of Ireland \(AAI\)](#)

[Anthropology Southern Africa \(ASnA\)](#)

[Association of Social Anthropologists UK & Commonwealth \(ASA\)](#)

[European Association of Social Anthropologists \(EASA\)](#)

[International Association for Southeast European Anthropology \(InASEA\)](#)

[International Society for Ethnology and Folklore / Société Internationale d'Ethnologie et de Folklore \(SIEF\)](#)

[International Union of Anthropological and Ethnological Sciences \(IUAES\)](#)

[Latin American Association / Asociación Latinoamericana de Antropología \(ALA\)](#)

[Pan African Anthropology Association \(PAAA\)](#)

[Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research](#)

Members: National associations

[Argentina \(Colegio de Graduados en Antropología de la República Argentina - CGA\)](#)

[Australia \(Australian Anthropological Society - AAS\)](#)

[Brazil \(Associação Brasileira de Antropologia - ABA\)](#)

[Canada \(Canadian Anthropology Society / Société canadienne anthropologie - CASCA\)](#)

[Croatia \(Croatian Anthropological Association - HAD\)](#)

[Czech Republic \(Czech Association for Social Anthropology - CASA\)](#)

[Chile \(Colegio de Antropólogos de Chile - CAC\)](#)

[Finland \(Finnish Anthropological Society - SAS\)](#)

[France \(Association Française d'Ethnologie et d'Anthropologie - AFEA\)](#)


[France \(Association Française des Anthropologues - AFA\)](#)

New members

If you are interested to join the WCAA, please read the following information.

FIND US ON [FACEBOOK](#)



 France (Association pour la Recherche en Anthropologie Sociale - APRAS)

 Germany (Deutsche Gesellschaft für Völkerkunde - DGV)

 Hong Kong (Hong Kong Anthropological Society - HKAS)

 India (Indian Anthropological Association - IAA)

 India (Indian Anthropological Society, Calcutta)

 Israel (Israeli Anthropological Association - IAA)

 Italy (Istituto Italiano di Antropologia - ISiTA)

 Japan (Japanese Society of Cultural Anthropology - JASCA)


 Latvia (Latvijas Antropologu Biedriba - LAB)

 Mexico (Colegio de Etnólogos y Antropólogos Sociales - CEAS)


 New Zealand (Association of Social Anthropologists of New Zealand/Aoteroa - ASA-NZ)

 Norway (Norsk Antropologisk Forening - NAF)


 Philippines (Anthropological Association of the Philippines / Ugnayang Pang-Aghamtao, Inc - UGAT)

 Poland (Polskie Towarzystwo Ludoznawcze / Polish Ethnological Society - PTL)

 Portugal (Associação Portuguesa de Antropologia - APA)


 Russia (Russian Association of Anthropologists and Ethnologists - RAEE)

 Spain (Catalania) (Institut Català d'Antropologia - ICA)

 Spain (Asociación de Antropología de Castilla y León - AAC-LMK)

 Sweden (Anthropological Association of Sweden - SANT)

 Taiwan (Taiwan Society for Anthropology and Ethnology - TSAE)

 Tunisia (Tunisian Association of Anthropology / L'Association Tunisienne d'Anthropologie - TAA)

 UK (Royal Anthropological Institute - RAI)

 USA (American Anthropological Association - AAA)



The Power of Images

The National Museum of Ethnology Collection

紙人形「フーダ」 地域：メキシコ・シティー 国名：メキシコ 1985年頃制作 国立民族学博物館蔵 写真提供：国立民族学博物館

迫りくる力、驚きとの出会い、
このアートを体感しよう

イメージの力 —— 国立民族学博物館コレクションにさぐる

国立民族学博物館創設40周年記念
日本文化人類学会50周年記念

2014年2月19日|水|—6月9日|月| 毎週火曜日休館 ただし、4月29日(火)および5月6日(火)は開館、5月7日(水)は休館

国立新美術館 企画展示室2E [東京・六本木]

Kokuritsu-Shin-Bijutsukan

主催：国立新美術館、国立民族学博物館 共催：日本文化人類学会

開館時間：午前10時—午後6時 金曜日は午後8時まで

4月19日(土)は午後10時まで開館(入場は閉館の30分前まで)

新 国立新美術館
THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO



神像付きの椅子 民族: イアトムル
国名: パプアニューギニア 1988年収集



アサフオ結社の旗 民族: ファンティ
国名: ガーナ 1940年頃制作



ゾウの仮面「ムバップ・ムテン」 民族: パミレク
国名: カメルーン 1996年収集



舞踏劇「チャム」の仮面「シンギエ」 地域: ティンブ
国名: ブータン 20世紀後半制作

The Power of Images

The National Museum of Ethnology Collection

世界の本質や構造にかたちや色を与えて視覚化することは、人間に与えられた豊かな資質のひとつです。古来、私たちはイメージを生み出すことに精力を傾けてきました。本展覧会では、イメージの創造とその享受のあり方に人類共通の普遍性はあるのかという問いをテーマに掲げ、古今東西のあらゆる造形物を紹介します。展示されるのは、世界各地の資料を擁する国立民族学博物館の膨大なコレクションから選りすぐられた逸品です。同博物館と国立新美術館との共同企画である本展覧会は、地域や時代ごとに分類するのではなく、共通した造形性や効果、機能に着目してイメージを提示します。これは、造形物に対して私たちが持っている固定観念を問い直す試みでもあります。国立新美術館の広大な展示室には、博物館でお馴染みの仮面や神像から今活躍中の美術家の作品までが、美術館と博物館の垣根を超えて一堂に会します。儀礼に供されてきたイメージの圧倒的な生命力、文化交流から生まれたハイブリッドな造形の奥深さ、グローバル化した現代社会とともにあるイメージの活力など、多種多様な視覚芸術が有する豊穡な力を堪能ください。



女性用前掛け布 民族: クバ
国名: コンゴ民主共和国 1983年収集



早変わり仮面 作者: リチャード・ハント
民族: クワクワカワク 国名: カナダ 1977年制作



「トコペイ」人形 地域: トビ島
国名: パラオ共和国 1940年頃収集



羽毛製頭飾り 民族: ツカハイ
国名: ブラジル 1960年代制作

※画像8点すべて
国立民族学博物館蔵 写真提供: 国立民族学博物館

観覧料(税込):	一般	大学生
当日	1,000円	500円
前売/団体	800円	300円

※4月19日(土)は「六本木アートナイト2014」、5月18日(日)は「国際博物館の日」につき、入場無料

※高校生、18歳未満の方(学生証または年齢のわかるものが必要)および障害者手帳をご持参の方(付添の方1名を含む)は入場無料

※前売券および当日券は、チケットぴあ(Pコード: 765-886)、ローソンチケット(Lコード: 35715)でも取り扱っています(手数料がかかる場合があります)

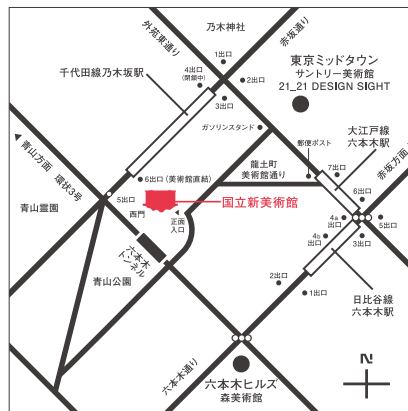
※前売券は2013年11月9日(土)から2014年2月18日(火)まで販売[国立新美術館では2013年12月11日(水)から2014年2月17日(月)まで]

※団体券は国立新美術館のみで販売(20名以上に適用)

※会期中に当館で開催中の他の企画展および公募展のチケット、またはサントリー美術館、森美術館(ATRo)で開催中の展覧会チケット(半券可)を提示された方は、団体料金が適用されます

※65歳以上の方(年齢のわかるものが必要)は、会期中に当館で開催中の公募展チケット(半券可)の提示で大学生団体料金が適用されます

関連イベント: 詳細が決まり次第ご案内します。最新情報については、当館ホームページをご覧ください。
同時開催の企画展: 「中村一美展」2014年3月19日(水)~5月19日(月)



アクセス

東京メトロ千代田線 乃木坂駅 青山霊園方面改札
6出口(美術館直結)
東京メトロ日比谷線 六本木駅 4a出口 徒歩約5分
都営地下鉄大江戸線 六本木駅 7出口 徒歩約4分

新 国立新美術館
THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
URL: <http://www.nact.jp/>

お問合せ: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)